

令和元年度 岡崎幸田地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付けの現状および地域が抱える課題

地域協議会に属する岡崎市、幸田町は、愛知県のほぼ中央南東寄りに位置し、総面積 443.92 ㎢で、県土のおよそ 9%を占めている(岡崎市 387.20 ㎢、幸田町 56.72 ㎢)。

交通の便が良く、三大都市のひとつである名古屋市圏内にあり、東名高速道路、国道 1 号、23 号、南北には 248 号が通り、これら主要国道から縦横に主要地方道が整備され、名古屋市へおよそ 40 km と近く、東京と大阪のほぼ中央に位置し、管内にも消費地を抱えるなど、恵まれた市場条件下にある。また、将来の高速道路体系の中核となる新東名高速道路の建設が進み、岡崎東部にインターチェンジが開設されたことで、地域産業の活性化や農産物の有利販売等、流通面での期待も高まっている。

また、岡崎市西部を北から南に縦断する矢作川、乙川等は、良質米や野菜を生産する貴重な水利源であるが、近年は恒常的な水不足となっている。

地域の気候は、総じて太平洋側の温暖適雨な気候である。ただし、岡崎北東部及び額田地域は、海拔およそ 50m から 790m の間に位置し、標高差が大きい中山間地であり、昼夜の温度差が大きく、良食味米を生産できる。

水田の作物別利用状況をみると、平成 30 年産の作付面積は水稻 1,840ha、麦 780ha、大豆 675ha となっており、平坦部の麦、大豆については、圃場の集団化、担い手への土地利用集積が進んでいる。しかし、米以外の作付けが難しい中山間地では排水不良や農地面積が小さいため不作付け地が増加している。

2 作物ごとの取組方針

依然として、米消費の減少が進む中で、水田の基盤整備、担い手への土地利用集積、共同利用機械施設の拡充による生産コストの低減を図り、売れる米づくり、計画的な水田営農を行っていく必要がある。

(1) 主食用米

需要に応じた米の計画的生産という観点から消費動向にあった品種の選択、作付けの団地化、生産技術の向上等により良質米の生産に努める。特に売れる米づくりの視点から、ミネアサヒ「たべりん」、特別栽培農産物「いきいき愛知」、「安心あいち米」へ取組み、作付け拡大を図るとともに、消費拡大イベント等を行う。

(2) 非食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を麦後大豆に次ぐ転換作物に位置付けし、畑作物に適さない地域で導入を推進する。飼料用米の生産にあたっては、コンタミ防止のために主に主食用品種で対応するが、一部で多収品種を導入する。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、米粉用米を麦後大豆に次ぐ転換作物に位置付け

し、畑作物に適さない地域で導入を推進する。

ウ 加工用米

米粉用米同様に、主食用米の需給減の中、加工用米においても麦後大豆に次ぐ転作作物に位置付けし、畑作物に適さない地域で導入を推進する。

当該地域の加工用米は、味醂製造業者への販売を中心に生産を行っており、複数年契約による安定生産を目指す。

エ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取組める転作作物として、平成 25 年産から新たな取り組みを開始したところであり、飼料用米への変更もあるが継続して維持していく。

オ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要は減少傾向にある。このため、国内、国外の米の新市場の開拓を図る米穀の作付けに取り組む。

(3) 麦

生産調整において大規模化に適していることから、産地交付金を活用して、土壌改良材の施用による品質向上の取組みを推進しながら、団地化及びブロックローテーションの枠組を継続していく。

需要者の要望に即し計画生産していく中で、品種については、本年も需要者からのニーズが高い「きぬあかり」・「ゆめあかり」・「大麦」を継続して、栽培面積維持をしていく。

(4) 大豆

薬剤の施用またはフェロモントラップによるヨトウ虫防除対策を実施し品質向上を図る。団地化の中で麦の後作として、土地利用率の向上を図るとともに、適地・適作を行うことを基本とし、品質の向上に努め、実需から要請のある早期出荷を推進し、需要先（加工販売業者）の新規開拓を進める。

需要者の要望に即し計画生産のために、農地団地化及びブロックローテーションの枠組を継続していく。

(5) そば

麦・大豆・新規需要米以外の生産振興作物としては、中山間地を中心としたそばを位置付け、現行の栽培面積を維持する。

(6) 高収益作物（園芸作物等）等

当該地域は施設園芸及び地場野菜の生産が盛んであり、それらの作物を振興作物として位置付ける。

なお、本年度より、いちごの新規就農者を支援する取組をおこなう。

また、県の指定種子生産圃場として、水稻及び麦の優良種子生産も継続していく。

3 作物ごとの作付け予定面積

消費者・需要者のニーズを起点とした、米を中心とする販売戦略の確実な実行と販売戦略に基づく農業者の積極的な売れる農産物生産への取組を前提に、下記を生産目標とする。

目標を達成するには、販売を行う農業者団体等が消費者需要を的確に把握して農業者へ伝達し、農業者がその需要に基づいた農産物を生産・出荷することが必要であり、双方の努力と連携が重要である。

作物	前年度の作付面積 (h a)	当年度の作付予定面積 (h a)	2020年度の作付目標面積 (h a)
主食用米	1830	1840	1830
加工用米	6	18	20
備蓄米	15	20	20
新市場開拓用米	-	2.5	2.5
飼料用米	76	76	76
米粉用米	1	1	1
麦	780	780	792
大豆	675	675	682
飼料作物	15	15	15
そば	13	12	10
その他地域振興作物	102	102	102
野菜	80	80	80
花き・花木	3	3	3
果樹	5	5	5
加工青刈り稲	1	1	1
その他	14	14	14

4 課題解決に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	用途名	目 標	前年度（実績）		目 標 値	
1	麦	生産性向上等の取組を行った麦に対する助成	取組面積 (ブロックローテーションによる2年3作の維持)	(30年度)	683ha	(2020年度)	792ha
2	大豆	生産性向上等の取組を行った大豆に対する助成	取組面積 (ブロックローテーションによる2年3作の維持)	(30年度)	18ha	(2020年度)	20ha
3	大豆	中山間地における大豆の生産性向上に対する加算	取組面積 (中山間地での振興作物として推進)	(30年度)	9 ha	(2020年度)	12ha
4	そば	中山間地におけるそばの生産性向上に対する助成	単収 (中山間地での振興作物として推進)	(30年度)	0 kg	(2020年度)	40kg
5	野菜	高収益作物（野菜）に対する助成	取組面積 (施設園芸を中心戸する振興作物として推進)	(30年度)	36ha	(2020年度)	42ha
6	花き・花木	高収益作物（花き・花木）に対する助成	取組面積 (地域振興作物として推進)	(30年度)	1.2ha	(2020年度)	2.0ha
7	麦・大豆 そば	二毛作助成	取組面積 (ブロックローテーションによる2年3作の維持)	(30年度)	麦 71ha 大豆 604ha そば 5 ha 計 680ha	(2020年度)	麦 73ha 大豆 660ha そば 3 ha 計 736ha
8	飼料用米	稲わらの利用に対する助成（耕畜連携）	取組面積 (飼料用米の稲わら利用の推進)	(30年度)	6.3ha	(2020年度)	6.6ha

9	飼料用米	飼料用米 多収品種に対する助 成	取組面積	(30年度) 4.4ha	(2020年度) 6.0ha
---	------	------------------------	------	--------------	----------------

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細
別紙のとおり